

日本学生観光連盟 学観連総会・学生討論会

日本学生観光連盟
代表 高橋 竜
(帝京大学 経済学部 2年)

平成 23 年 3 月 5 日、立教大学新座キャンパスで行われた学観連総会および学生討論会についてのご報告をさせていただきます。

当日は、12 大学から 63 名の学生と、観光関連団体・企業から 11 名が参加してくださいました。

<学観連総会>

今回の学観連総会では、平成 22 年度の活動報告および決算報告、平成 23 年度の予算案および活動計画案、規約改正案の承認がなされました。

昨年度の活動として、5 月 8 日に JTB 法人東京さんとの連携プロジェクトが始動、5 月 27 日～6 月 4 日、外務省の JENESYS プログラムで学生がラオスに派遣、6 月 26 日～27 日の川越フィールドワーク、9 月 6 日～7 日の全旅連合宿、11 月 13 日の講演会などが報告されました。

役員改選では、新代表、高橋竜(帝京大学)を始め、計 14 名が選出されました。

今後の活動としては、6 月および 9 月にフィールドワーク(詳細未定)、11 月に講演会を予定しております。その他にも、各団体や企業との連携プロジェクトに取り組んでいこうと思っております。

<学生討論会>

今年度の学生討論会では「食から見る観光地活性化～学生の視点から考える～」をテーマに学生を 8 班に分け、ブレインストーミングと KJ 法を用いて意見を交わしました。

その事前学習として、3 月 4 日に数名の学生の参加を募って、浅草、川越、横須賀、厚木にフィールドワークに行き、お店の方や住民、観光客にアンケートをとり、powerpoint にまとめ、フィールドワーク報告会という形で、当日 4 グループに発表してもらいました。

その後、各班が教室に分かれて、1 時間半という限られた時間のなかでテーマについてフィールドワークの結果も踏まえながら、個人の経験や意見も交えて討論しました。どの学生も積極的に討論に参加し、また仲間の意見に耳を傾け、模造紙にまとめ、その後、班ごとに全参加者の前で発表しました。

また、発表では、同じテーマだったのにも関わらず、8 班それぞれが焦点を当てたポイントや発表の仕方に工夫があり、その後の発表会では、他の班の発表に「そういう見方もあ

ったのか」、「おもしろそう」、「実現可能かもしれない」と気づかされることがたくさんあり、また、学生がもっている無限の可能性に驚きを感じました。



<新代表の挨拶>

この度、第3期の代表に就任しました、帝京大学の高橋竜です。

今回の総会・討論会は多くの方のご協力があり、無事に終えることができました。顧問の先生、前執行部役員の方々、会員の皆様には、深く感謝しております。また、事前フィールドワークという新しい試みにも挑戦し、執行部役員は多忙な日々が続きましたが、一つの壁を乗り越え、自信をつけることができました。

日本学生観光連盟は、今期で3期目となりました。先輩方が築きあげてきた伝統をしっかりとし、そしてさらなる飛躍を遂げたいと思っております。執行部役員一同、協力し運営を行います。執行部では現在様々な企画を考えておりますので、活動を行う際には、是非ご参加ください。

今後とも、日本学生観光連盟をよろしくお願い致します。

<皆様へ>

日本学生観光連盟には発足当時の大学を含め、新たな大学も加わり、現在では25大学、総勢270名という大きな組織に成長しました。我々が目的としております、「観光を学ぶ学生同士がネットワークを構築し、実社会での観光場面で学習活動並びに社会貢献を行うことを通じて、観光の新たな可能性を求める」を今回の学観連総会および学生討論会でも達成できたと思っております。

今回参加していただいた学生の皆様には、今回の活動が皆様の観光について考えるきっかけになっていただければ幸いです。そしてこれからも、様々な学観連の活動に積極的に参加し、楽しみながら、共に大学の枠を超えた学びをしていきましょう。

団体、企業の皆様には、まだまだ未熟な学生団体ですが、今後とも、各種イベントや連携プロジェクト、講演会などでぜひともお力添えをお願い申し上げます。